

豊かな木更津の海を再生したい。ウミグモの大発生でアサリ漁が大打撃を受けている金田漁港（木更津市中島）で、地元漁師と市民が協力し、干潟に孟宗竹を逆さに立てた魚礁「逆さ竹林」で生態系を再生させる試みが始まった。東日本では初めてという。

逆さ竹林は、直径8〜10センチ、長さ約3メートルの孟宗竹の幹を、海底に1メートルほど突き刺し、そこに枝の付いた竹を逆さまにして針金などでくくりつけ、魚礁を造るといふもの。

干潟に立てられた竹の枝は、アサリの稚貝や小魚などが育つのに適しているという。独立行政法人「水産大学校」（山口県下関市）の准教授、浜野龍夫さん（48）が考案した。

木更津市の沿岸部分は、全国でも屈指の砂質の自然干潟「盤洲干潟」が海岸線3〜5キロに広がっており、地元の漁師は主にアサリ漁やノリの養殖を営んでいる。しかし約4年ほど前からマゴチやハゼの稚魚など小魚が急激に減少したという。

今年は、節足動物の一種で海洋性のウミグモが大発生。ウミ

木更津・魚礁造り始まる

グモの幼生が寄生したアサリが大量に死に、同市内の漁協はアサリの出荷を自粛するなど、地元の漁業が大打撃を受けている。その原因の一つとして、ウミグモを餌にしている小魚や甲殻類の減少も指摘されている。

金田漁協の漁師、実形博行さん（47）は「逆さ竹林」が海の生態系の再生に一役買い、水産資源の増殖に大きな効果を上げていることを知り、漁協関係者らに提案。

その結果、「逆さ竹林」で木更津の海の生態系を取り戻そうということになり、漁師と市民らが協力して任意団体「盤洲干潟里海保全委員会」を立ち上げた。漁協関係者のホームページなどで、漁師や市民に「逆さ竹林で木更津の海を再生しよう」と広く呼びかけている。

これに賛同した木更津市真里谷で果実農園を営む江沢貞雄さん（59）が、農園の敷地内で増え過ぎた孟宗竹の提供を申し出



トラックの荷台から、切り出された孟宗竹を降ろす地元漁師と市民たち  
＝木更津市中島の金田漁港

# 逆さ竹林で海再生

## 小魚育て 生態系回復に期待

て、今年19日には約60本の孟宗竹が切り出された。江沢さんは「市民と漁師が一体となって、山の資源が海で生かされるのは素晴らしいことですね」と笑顔で話していた。

逆さ竹林の魚礁による海の再生活動は、水産庁と効果を確らし合いながら来年3月まで続けられるという。

実形さんは「海と山は一体で切り離して考えることができない。内陸部で増えすぎて問題に